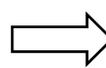


1. 実践研究テーマ

- ・豊かな人権感覚を育成し、多様性を認め合う人権教育の創造
- ・校内研修を充実させ、学校運営上の諸課題に取り組む組織体制づくり

2. 取組の内容（協力校等との連携等を含む）

- SWOT分析、ワールドカフェ等によるワークショップ研修
 - ・学校や地域の強みと課題についての把握と共通理解
 - ・日常の教育活動のよさや課題についての共通理解
 - ・グループワークによる学力向上実行プランの見つめ直し
 - ・グループワークによる学校評価の共通理解と学校教育目標の見つめ直し
- プロジェクトチームの編成
 - ・自尊感情を高める教育活動班、豊かな人権感覚を養い、実践力や行動力を育成する指導支援班、多様性を認めあう人間関係を育成する仲間づくり班、教職員の感性を磨く研修の充実班
 - ・PDCAサイクルによる各チームの実践
- 低・中・高学年の3部会に分かれての指導計画、指導案検討等
 - ・少人数による指導案の検討や指導計画、授業細案等の協議
 - ・協力的な学習、参加的な学習、体験的な学習の研究
 - ・研究授業、授業研究会の運営
- 市宇ヶ丘学園合同研修会を通じた保小中連携の推進
 - ・知・徳・体三部会による児童生徒の課題、取組の共有と振り返り
 - ・人権学習研究授業と授業研究会による授業力向上



メンターチームによる提案と実践。



3. 取組の成果

○ 教職員の変容

- ・学力向上や人権学習授業研究会等の講師を招聘しての研修により授業改善が進んでいる。
- ・教職員による自己評価において「全教育活動を通して、自尊感情を高め思いやりや感謝の心、ふるさと牟岐を愛する心を育てている。」の項目が100%となり、共通理解のもと教育活動が進むようになってきている。
- ・特別支援教育コーディネーターや通級指導教室担当と連携し、指導方法の改善に取り組む教育効果を上げていると実感する教職員が94%となった。

○ 児童生徒の変容

- ・目標を意識し、自ら考え行動しようとする児童の姿が増えてきた。目標達成に向けてねばり強く取り組む姿も増えてきた。
- ・「～ができるようになった。」という発言が増えてきており、発言する声も大きくなってきた。自信なく発表をしていた児童が少しずつ自信が持てるようになってきている。
- ・集会等において感想等を積極的に発表する児童が増えてきた。また、比較したり、関係づけたりした内容も増える傾向にある。